

(57) Claims

1. A cold protection earmuff having a configuration in which a longitudinal long hole 3 formed in a protrusion extending from a rear surface of a bowl-shaped base body 2 in an earmuff main body 1, a pair of protruding upper and lower elastic tongues 4 and 4 are disposed in the long hole 3 so as to oppose to each other, a guide 5 having approximately a U-letter shaped cross-section is integrally formed across an intermediate portion of a length of the long hole 3, a small recess 16 is provided on an inner surface of the guide, a plurality of positioning lugs 8 which are fitted in the small recess 16 is provided on an outer surface of band-like insertion parts 7 and 7 formed at both ends of a headband 6 having approximately an inverse U-shape at constant intervals, and the band-like insertion part 7 is inserted in the guide 5 of the earmuff main body 1 and is sandwiched under pressure between the elastic tongues 4 and 4.

2. The cold protection earmuff according to claim 1, wherein the headband 6 is a metallic leaf spring.

3. The cold protection earmuff according to claim 1 or 2, wherein the elastic tongue 4 has a raised portion 14 on an outer surface of a frond end thereof.

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭56—146719

⑬ Int. Cl.³
A 41 D 21/00

識別記号

庁内整理番号
7030—3B

⑭ 公開 昭和56年(1981)11月5日

審査請求 有

(全 2 頁)

⑮ 防寒用耳覆い

⑯ 実 願 昭55—46075

⑰ 出 願 昭55(1980)4月4日

⑱ 考 案 者 森岡太一

大阪市生野区巽南5丁目6番5

号ヒカリトレード株式会社内

⑲ 出 願 人 ヒカリトレード株式会社

大阪市生野区巽南5丁目6番5

号

⑳ 代 理 人 弁理士 清水久義

⑳ 実用新案登録請求の範囲

(1) 耳覆い本体 1 における腕状基体 2 の背面に縦方向の長孔 3 を突設すると共に、該長孔 3 内に突出する上下 1 対の弾性舌片 4、4 を対向状に突設し、かつ前記長孔 3 の長さの中間部においてこれを跨ぐ状態に横断面略コ字状の案内部 5 を一体に形成しその内面に小凹部 16 を設ける一方、逆略 U 字状に形成したヘッドバンド 6 の両端の带状差込部 7、7 の外面に、前記小凹部 16 に嵌まり込む複数の位置決め突起 8 を一定間隔に設け、而して上記带状差込部 7 を耳覆い本体 1 の前記案内部 5 に挿通し弾性舌片 4、4 との間で挟圧せしめた構成を有する防寒用耳覆い。

(2) ヘッドバンド 6 が金属製の板ばねである実用新案登録請求の範囲第 1 項記載の防寒用耳覆い。

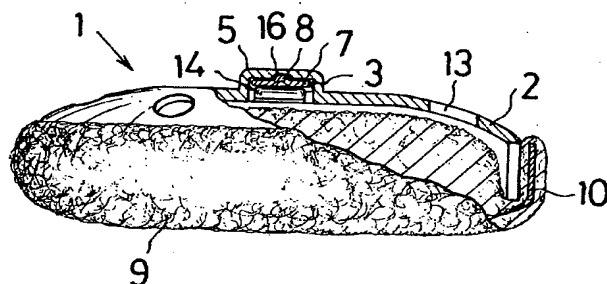
(3) 弾性舌片 4 は、その先端外面に隆起部 14 を有する実用新案登録請求の範囲第 1 項または第 2 項記載の防寒用耳覆い。

図面の簡単な説明

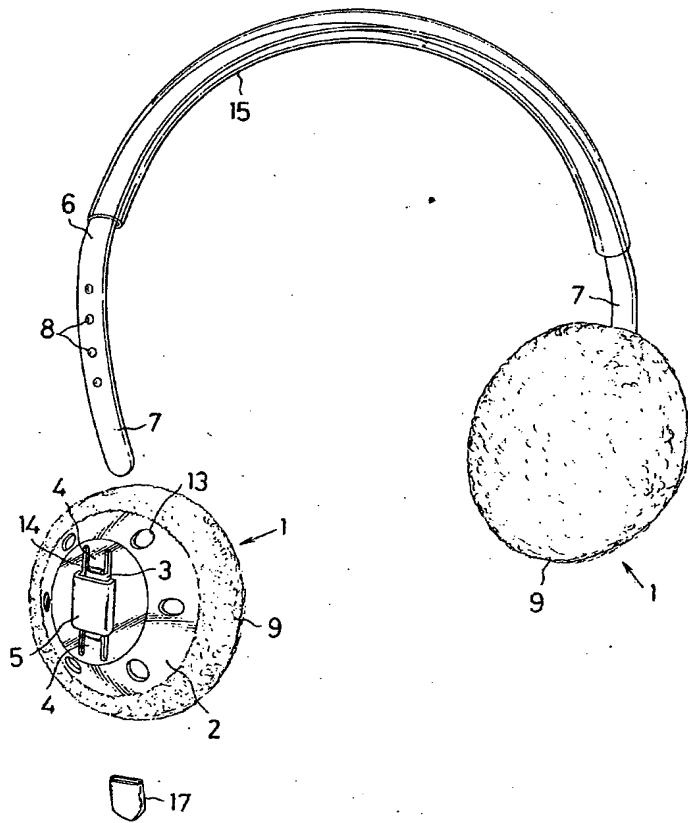
図面はこの考案の実施例を示すもので、第 1 図は片方の耳覆い本体をヘッドバンドから分離して示した斜視図、第 2 図は要部の一部切欠側面図、第 3 図は同じくその一部切欠平面図である。

1……耳覆い本体、2……腕状基体、3……長孔、4……弾性舌片、5……案内部、6……ヘッドバンド、7……带状差込部、8……位置決め突起、14……隆起部、16……小凹部。

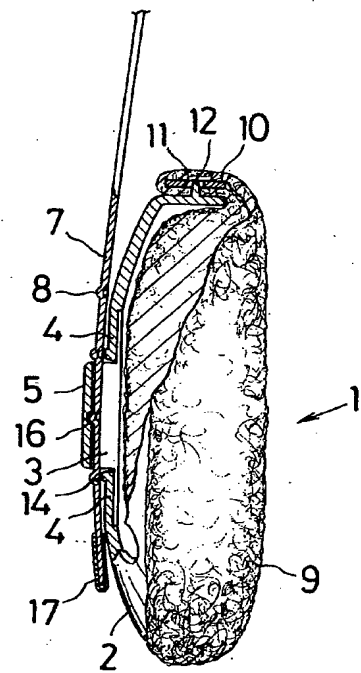
第 3 図



第1図



第2図





実用新案登録願 (2) 後記号なし

昭和55年 4月 4日

特許庁長官 川 原 能 雄 殿

商

1. 考案の名称
ボウカンヨウミオオ
防寒用耳覆い

2. 考 案 者
オオサカシクノ クタツミナミ
住 所 大阪市生野区巽南5丁目6番5号
氏 名 ヒカリトレード株式会社内
モリ オカ タ イチ
森 岡 太 一

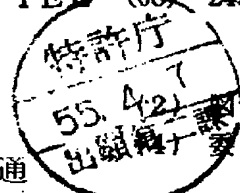
3. 実用新案登録出願人
オオサカシクノ クタツミナミ
住 所 大阪市生野区巽南5丁目6番5号
氏 名 ヒカリトレード株式会社
モリ オカ タ イチ
代表者 森 岡 太 一

4. 代 理 人
住 所 〒542 大阪市南区順慶町通3丁目50番地 榎本ビル403
氏 名 (7116) 弁理士 清 水 久 義

TEL (06) 245 - 2718

5. 添付書類の目録

- (1) 明 細 書 1通
(3) 願 書 副 本 1通
(5) 出願審査請求書 1通



面 1通
式 査
方 番



55 046075

146719

明 細 書 (2)

1. 考案の名称

防寒用耳覆い

2. 実用新案登録請求の範囲

- (1) 耳覆い本体 (1) における腕状基体 (2) の背面に縦方向の長孔 (3) を突設すると共に、該長孔 (3) 内に突出する上下 1 対の弾性舌片 (4) (4) を対向状に突設し、かつ前記長孔 (3) の長さの中間部においてこれを跨ぐ状態に横断面略コ字状の案内部 (5) を一体に形成しその内面に小凹部 (6) を設ける一方、逆略 U 字状に形成したヘッドバンド (6) の両端の帯状差込部 (7) (7) の外面に、前記小凹部 (6) に嵌まり込む複数個の位置決め突起 (8) を一定間隔に設け、而して上記帯状差込部 (7) を耳覆い本体 (1) の前記案内部 (5) に挿通し弾性舌片 (4) (4) との間で挟圧せしめた構成を



有する防寒用耳覆い。

(2) ヘッドバンド(6)が金属製の板ばねである実用新案登録請求の範囲第1項記載の防寒用耳覆い。

(3) 弾性舌片(4)は、その先端外面に隆起部(4a)を有する実用新案登録請求の範囲第1項または第2項記載の防寒用耳覆い。

3. 考案の詳細な説明

この考案は防寒用耳覆いに関し、ヘッドバンドに対する耳覆い本体の取付位置の調節を簡単かつ確実になしうる簡易な両者の連結構造を提供しようとするものである。

かかる目的において、この考案は、図示実施例に示すように、耳覆い本体(1)における腕状基体(2)の背面に縦方向の長孔(3)を穿設すると共に、該長孔(3)内に突出する上下1対の弾性舌片(4)(4)

を対向状に突設し、かつ前記長孔(3)の中間部においてこれを跨ぐ状態に横断面略コ字状の案内部(5)を一体に形成し、その内面に小凹部(16)を設ける一方、逆略U字状に形成したヘッドバンド(6)の両端に帯状の差込部(7)(7)を設け、かつその外面に前記小凹部(16)に嵌まり込む複数個の位置決め突起(8)を一定間隔に設け、而して前記帯状差込部(7)を耳覆い本体(1)の前記案内部(5)に挿通し、弾性舌片(4)(4)との間で挟圧せしめた構成を有することを特徴とするものである。

耳覆い本体(1)の腕状基体(2)は合成樹脂製のものであり、その開口面を覆う状態に起毛保温シート(9)が環状保持枠(10)によつて取付けられている。この保温シート(9)の取付けは、それを予め環状保持枠(10)に周縁部を巻き込んで装着したのち、該保持枠(10)を腕状基体(2)の外周に密に嵌合



し、孔(11)とこれに嵌まり込む係止突起(12)とにより保持棒(10)を脱落しないように係止せしめることにより取付けられているものである。(13)は桶状基体(2)の背面周縁部に穿たれた複数個の通音用透孔、(14)は弾性舌片(4)の先端部外面に設けられた隆起部で、ヘッドバンド(6)の弾圧をより確実に行わしめるためのものである。

ヘッドバンド(6)は不錆性の金属製板ばねからなるもので、その中間部、即ち両端の差込部(16)(16)間の位置には、柔軟な合成樹脂チューブ(15)が被嵌されている。(17)はヘッドバンド(6)の両端に嵌められた合成樹脂製キャップである。

尚、差込部(7)の位置決め突起(8)の間隔は、第2図に示すようにその1つが小凹部(16)に嵌まり込んだ状態においてその上下の突起(8)が案内部(15)の上下方に位置するように定めるべきである。



この考案は上述のような構成を有するものであるから、組立に際して、ヘッドバンド(6)の帯状差込部(7)(7)を案内部(5)に強制的に差込むだけで耳覆い本体(1)の取付けを完了することができ、組立製作が容易であるのはもとより、組立後は、第2図に示すように位置決め用(8)が案内部(5)の小凹部(10)に嵌合し、この嵌合状態が弾性舌片(4)(4)の弾力によつて確実に保持されるので、耳覆い本体(1)がみだりにずれ動く欠点がない。しかも、該耳覆い本体(1)を移動させるときは、ヘッドバンド(6)の差込部(7)を強く引き上げ、あるいは押し下げることにより、弾性舌片(4)(4)の撓曲を伴つて位置決め突起(8)が小凹部(10)から脱出し、次位の同突起が交替的に小凹部(10)に嵌まり込んで停止するので、クリックストップ効果を伴つて段階的に耳覆い本体(1)の取付位置を上下に変

更調することができ、頭部の大小に合わせて常に好適な状態で使用することができる。

4. 図面の簡単な説明

図面はこの考案の実施例を示すもので、第1図は片方の耳覆い本体をヘッドバンドから分離して示した斜視図、第2図は要部の一部切欠側面図、第3図は同じくその一部切欠平面図である。

(1) … 耳覆い本体、(2) … 腕状基体、(3) … 長孔、
(4) … 弾性舌片、(5) … 案内部、(6) … ヘッドバンド、
(7) … 帯状差込部、(8) … 位置決め突起、(9) … 隆起部、(10) … 小凹部。

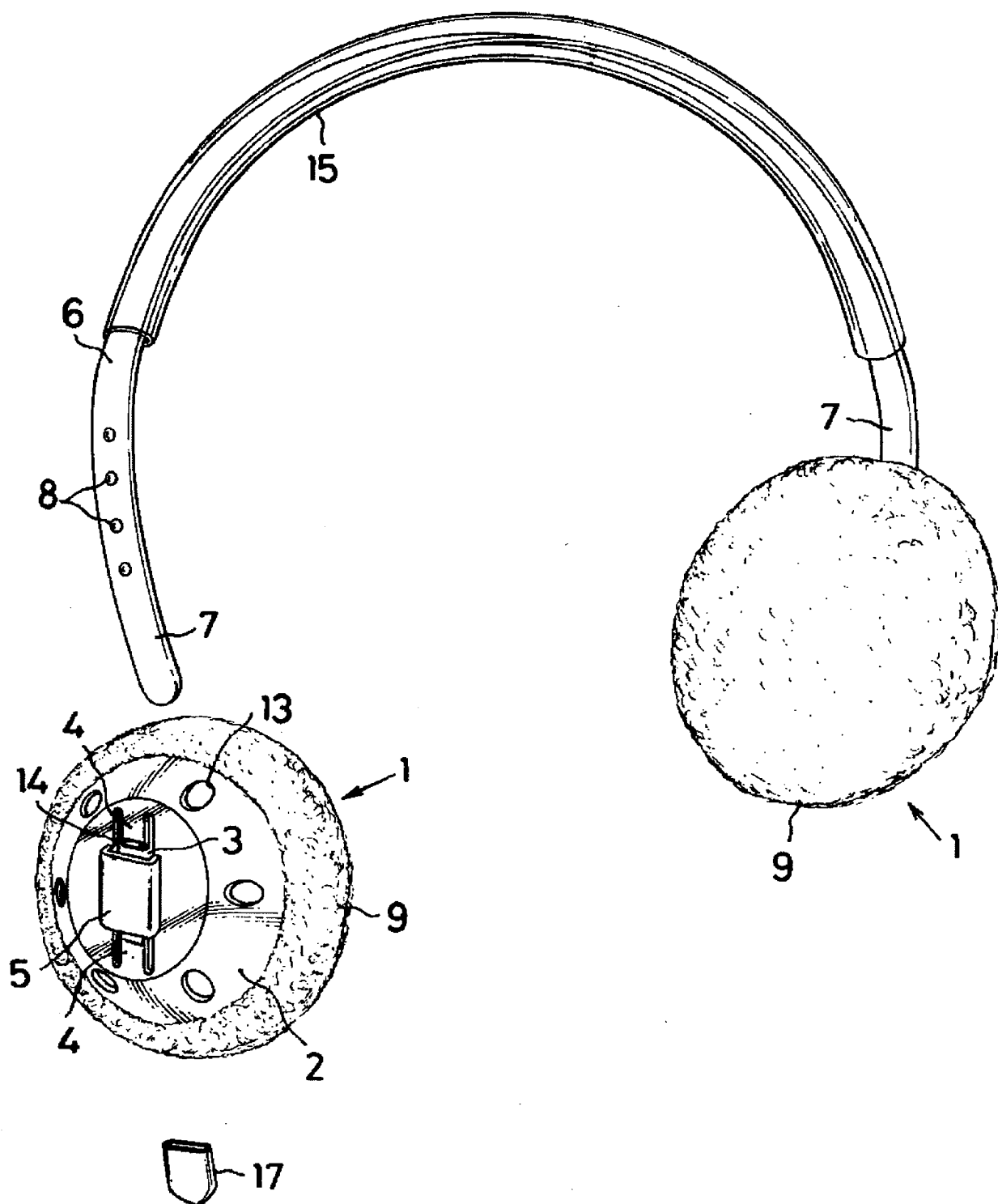
以 上

実用新案登録出願人 ヒカリトレード株式会社

代 理 人 弁 理 士 清 水 久 義



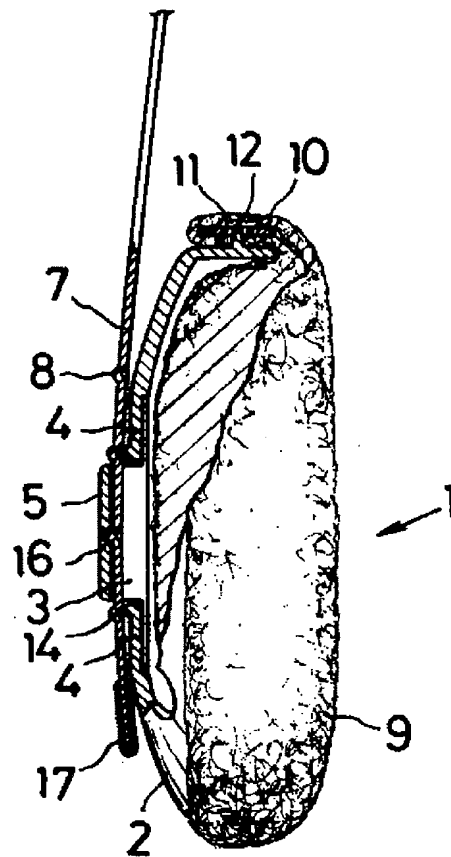
第 1 図



146719 1/2

代理人 清水 久 義

第 2 図



第 3 図

